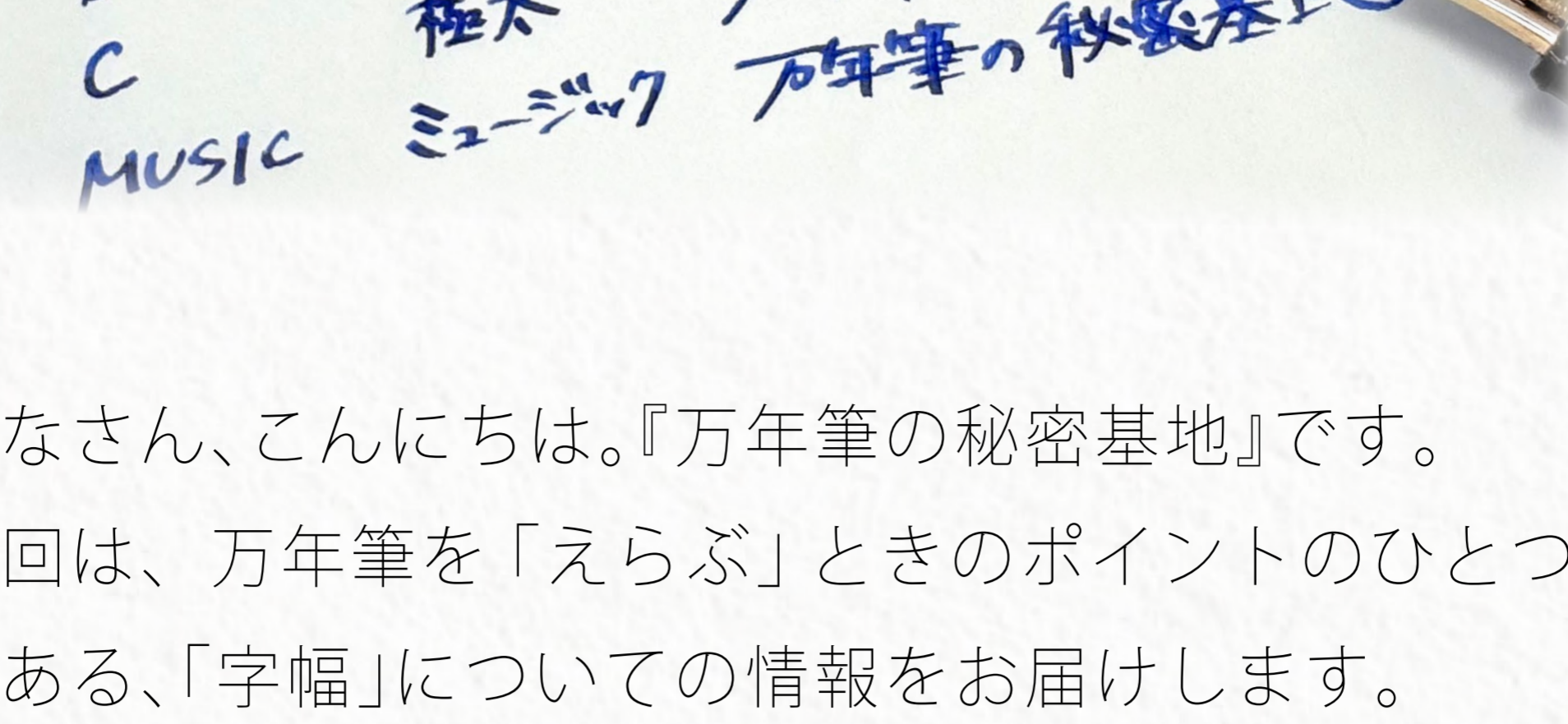


# 万年筆の秘密基地

第7回

## 見つけよう！ 自分にぴったりの万年筆

えらぶ



みなさん、こんにちは。『万年筆の秘密基地』です。今回は、万年筆を「えらぶ」ときのポイントのひとつである、「字幅」についての情報をお届けします。それでは早速、行ってみましょう！

### 万年筆を選ぶときのポイント

みなさんは万年筆を「えらぶ」とき、どんなことに注目しますか？数ある中からお気に入りの万年筆を見つけるためには、次のようなポイントがあります。

- ・見た目や素材 - フォルム(形状)や素材、クリップなど
- ・構造や機能 - メーカー独自の機能や、インクの補充方法など
- ・書き心地 - ペン先ごとの書き味の違い

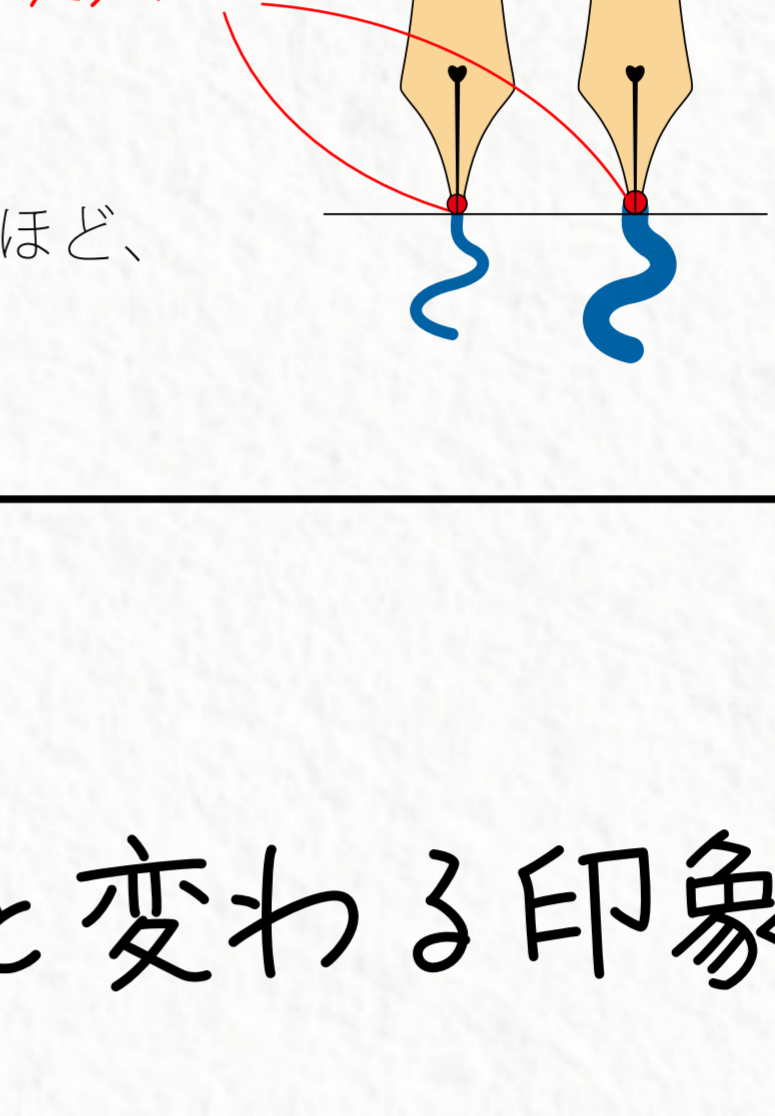
これらも大事なことですが、「どこに」「どんな文字を書くか」を考えると、まずはペン先の「字幅」が重要になってきます。

### 「字幅」ってなあに？

「字幅」とは、言い換えると「書ける線の太さ」のことです。「字幅」は主に、

- ・ペンポイントの大きさ
- ・ペンポイントが紙にあたる面積

によって変わります。これらが大きいほど、「書ける線の太さ」が太くなるんです！

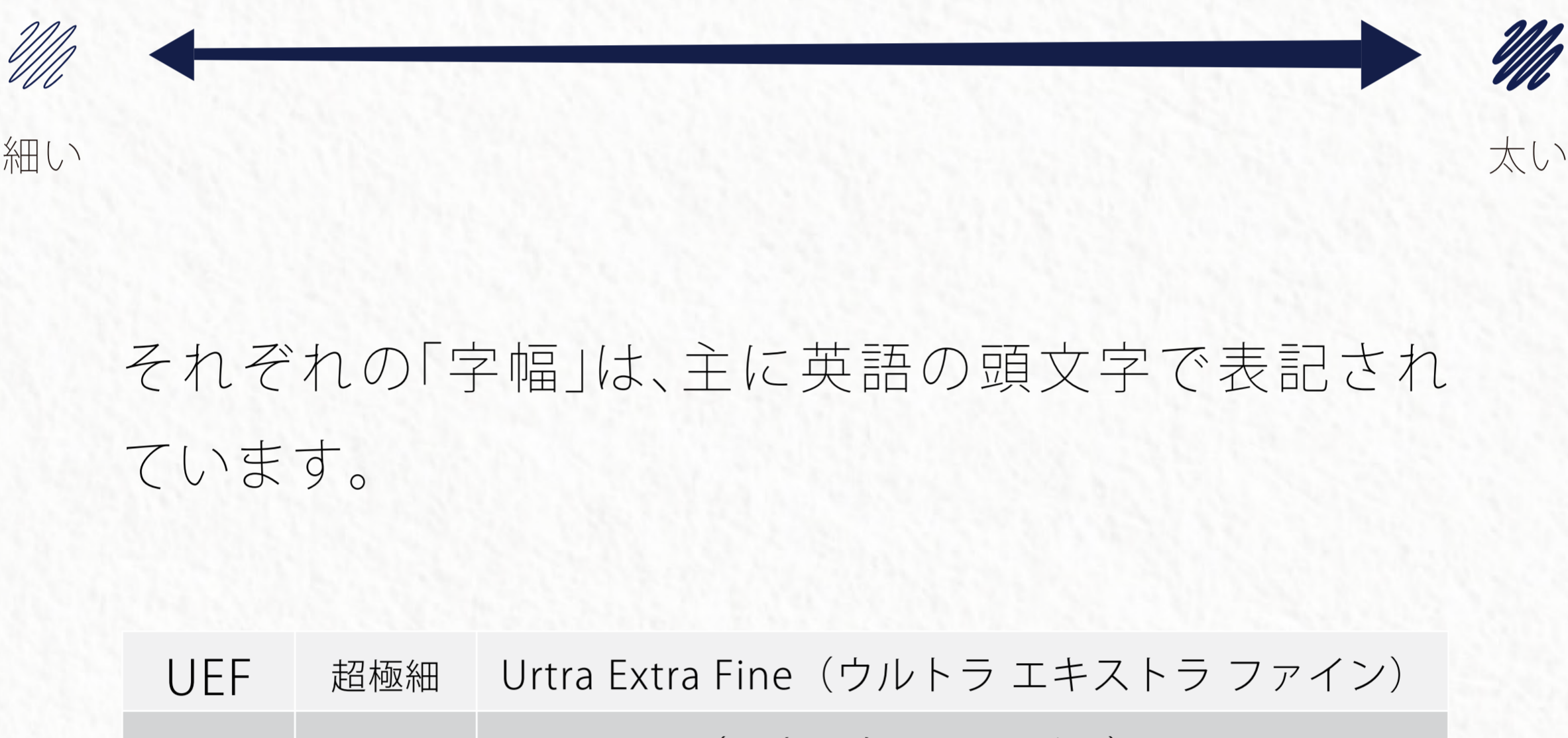


### 「字幅」でガラッと変わる印象

#### 大切な要素のひとつ「字幅」

ではその字幅には、どんなバリエーションがあるのでしょうか。プラチナ万年筆の#3776 センチュリーでは以下のような字幅を揃えています。

※名称や字幅の基準は、国やメーカーごとに異なります。

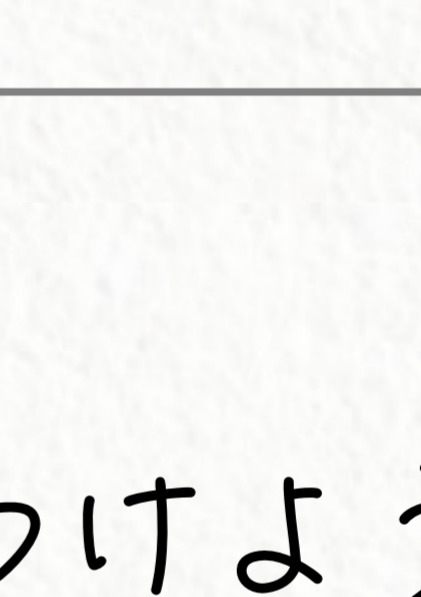


それぞれの「字幅」は、主に英語の頭文字で表記されています。

UEF	超極細	Ultra Extra Fine (ウルトラ エキストラ ファイン)
EF	極細	Extra Fine (エキストラ ファイン)
F	細字	Fine (ファイン)
M	中字	Medium (ミディアム)
B	太字	Broad (ブロード)
C	極太	Coarse (コース)
MUSIC	ミュージック	Music (ミュージック)

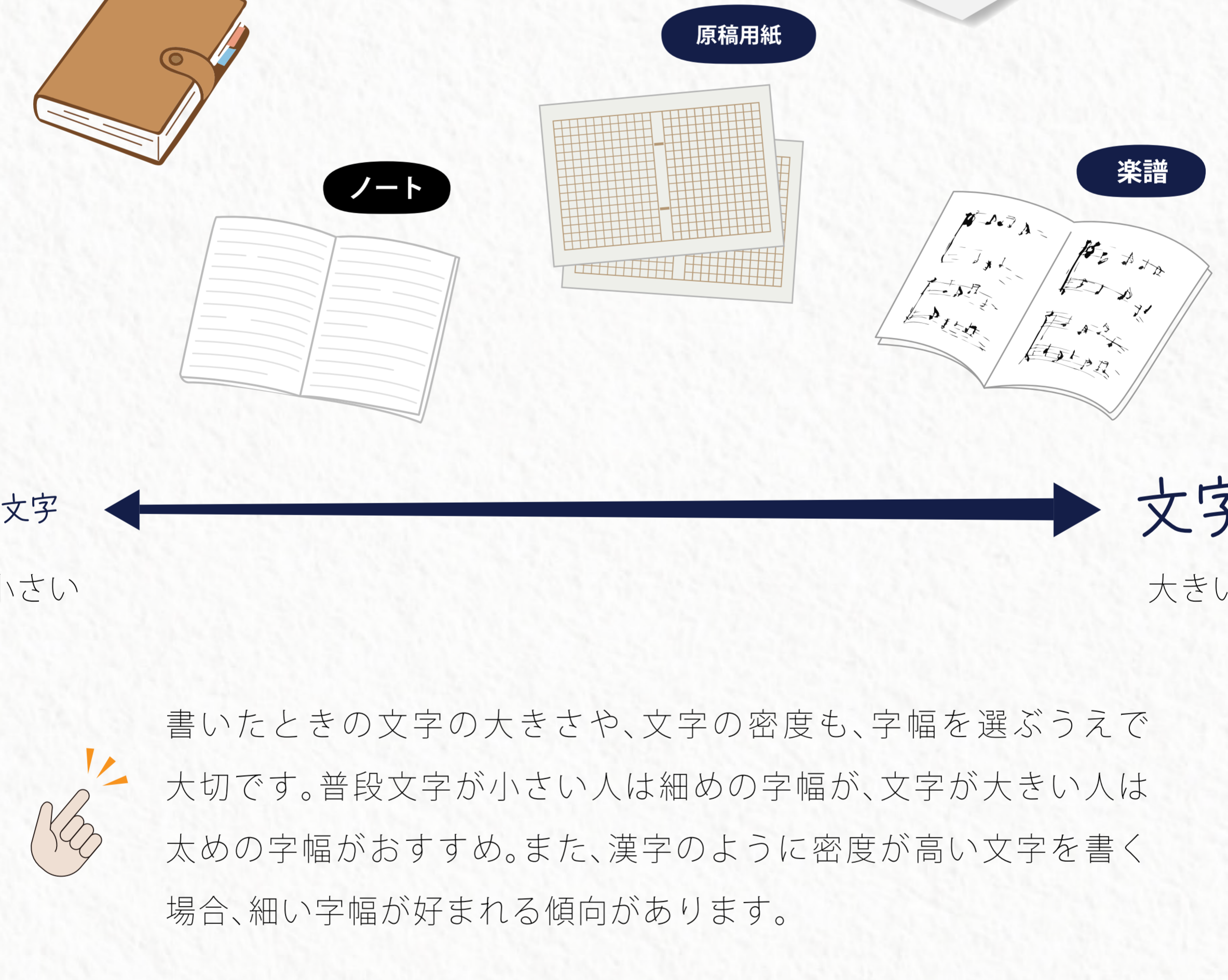
### 試し書きに「永」を書くのはどうして？

試し書きの用紙などに、「永」と書かれているのを見かけますよね。それは、文字を書く基本となる、縦線・横線・トメ・ハネ・ハライが「永」の字にすべて含まれるからなのです。お店で試す際は、「永」の文字を書いて書き心地をチェックしてみてください！



### 自分に合う「字幅」を見つけよう！

万年筆は「何に書くのか」「どんな大きさで書くのか」でおすすめの字幅が変わってきます。あなたは、どんな瞬間に万年筆を手に取りますか？



書いたときの文字の大きさや、文字の密度も、字幅を選ぶうえで大切です。普段文字が小さい人は細めの字幅が、文字が大きい人は太めの字幅がおすすめ。また、漢字のように密度が高い文字を書く場合、細い字幅が好まれる傾向があります。

#### 手帳、簿記



書くスペースが小さい場合、UEF (超極細) や EF (極細) がおすすめ。また、画数が多い漢字を書くことにも向いています。

#### ノート、日記、手紙

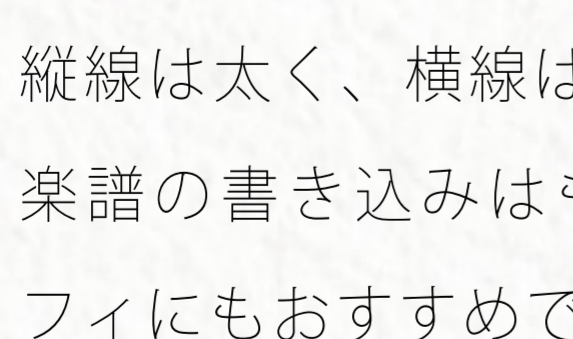
細かい文字を書く場合は F (細字) が、しっかりと書きたい場合は、インクの濃淡も出やすくなる M (中字) がおすすめです。

#### 宛名、サイン、原稿



インクの出る量が多く、すらすらとペンを走らせる原稿書きに向いています。英語など、密度の低い文字にもおすすめ。

#### 楽譜、カリグラフィ



縦線は太く、横線は細く出るのが特徴。楽譜の書き込みはもちろん、カリグラフィにもおすすめです。

MUSIC (ミュージック) のペン先は、楽譜を書くために適したペン先として開発されました。五線譜や音符をはっきり書くために設計されたと言われています。

文字を書くだけでなく、絵を描いたりインクを楽しむこともおすすめです。太めの字幅の方が、インクの濃淡や、シーンインク (光の反射によって色が変化するインク) の光沢感が出やすいと言われています。

字幅が変わると、書き心地も変わります。太めの字幅は、紙にふれるインクの量が多いため、なめらかな書き心地になります。一方細めの字幅は、書いている感触をしっかりと味わうことができます。

今回は、万年筆を選ぶうえで欠かせない要素のひとつ「字幅」について紹介しました。ぜひ、自分にぴったりの字幅を見つけてみてくださいね。

次回は、胴軸の素材や魅力について紹介していきます。お楽しみに！